

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	一般廃棄物焼却処理施設運営管理事業(東部クリーンセンター)	所管	環境クリーン部 東部クリーンセンター 施設課
			TEL 2998-5300

事業の目的 (何の為に 行うか)	廃棄物の適正な処理を行うため、焼却施設の適切な維持管理に努め、環境負荷の低減を図る。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	所沢市民と事業者から排出される「燃やせるごみ」を対象とする。	対象とした数	90,192	t
		実際に 利用した数	56,570	t

活動の内容 (何を したか)	<p>収集された「燃やせるごみ」は、一時的にごみピットに入れ、クレーンで攪拌してごみ質を均一にした後、焼却炉(115t/24h×2炉)で焼却する。焼却灰(主灰)及び集じん灰(焼却飛灰)は灰溶融炉(30t/24h×2炉)に送られ、西部クリーンセンター集じん灰(飛灰)及びガラスカレットと共に混合溶融してスラグ化し、より一層のごみの減容を行う。また、ろ過集じん器、湿式洗煙塔、活性炭吸着塔、脱硝反応塔の4つの排ガス処理設備により、排ガス中の有害物質の低減を図る。</p> <p>平成19年度より、埋立処分を実施していた溶融飛灰について、「山元還元」事業に転換し、資源化を図るとともに、薬剤費用と埋立費用(廃棄物対策課分)の削減が図れた。</p>								
	活動実績	項目名	焼却量	56,570	項目名	ダイオキシン類測定	0.0016	項目名	ダイオキシン類測定
			単位 t			単位 ng-TEQ/m3N			単位 ng-TEQ/m3N

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	1,429,908	1,323,826	1,418,236	4,182.9

成果 (結果として どうなったか)	成果指標名	説明(計算方法等)	目標値	実績	達成率
	ダイオキシン類測定	排ガス中ダイオキシン類濃度が 0.01 ng-TEQ/m3N以下であること	0.01 単位 ng-TEQ/m3N	0.01 単位 ng-TEQ/m3N	100.0 単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕				
		終了	⇒	事業完了	終了	休止
	予算	現状どおり	* 増額	減額	終了	

今後の 方向性 (二次評価 の意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了							
	総合評価	拡充	縮小	統合	改善・効率化	改善余地なし	その他〔 〕	終了
	予算	現状どおり	増額	減額	終了			

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名	担当	部課コード	050700	TEL	2998-5300
事業コード	環境	部	クリーン部	東部	クリーンセンター施設課
050703	一般	廃棄物焼却処理施設運営管理事業	(東部クリーンセンター)		
開始年度	平成 15 年度	→	終了年度	平成 年度	
グループ	焼却グループ				

②事業の概要	事業の種類別	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	<input type="checkbox"/> 法定受託+附加	根拠法令
	分野別計画・指針	所沢市一般廃棄物処理基本計画			廃棄物の処理及び清掃に関する法律・所沢市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例
	関連・類似事業				
	総合計画の体系	政策	第1章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち	施策	4節 廃棄物・リサイクル 中柱 2 適正処理の拡充
		・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 4 位		・実施計画における位置づけ… H19 ○ H20 ○	
行政改革大綱における行動計画への位置づけ	コード	3261	事務事業見直しの推進	コード	
事業開始の背景	廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、市町村は一般廃棄物の適正処理に努めなければならない。本事業は、市内の「燃やせるごみ」の安定処理、ごみの減量化、ダイオキシン類などの環境負荷の低減を図るために開始されたものである。				

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に)	廃棄物の適正な処理を行うため、焼却施設の適切な維持管理に努め、環境負荷の低減を図る。				
	対象(誰を、何を対象としているのか)	利用数の考え方		東部クリーンセンターでの年間焼却量		
	所沢市民と事業者から排出される「燃やせるごみ」を対象とする。	対象数	単位	平成 18 年度	94,927	t
				平成 19 年度	90,192	t
	事業の具体的な内容及び実施方法	収集された「燃やせるごみ」は、一時的にごみピットに入れ、クレーンで攪拌してごみ質を均一にした後、焼却炉(115t/24h×2炉)で焼却する。焼却灰(主灰)及び集じん灰(焼却飛灰)は灰溶融炉(30t/24h×2炉)に送られ、西部クリーンセンター集じん灰(飛灰)及びガラスカレットと共に混合溶融してスラグ化し、より一層のごみの減容を行う。また、ろ過集じん器、湿式洗煙塔、活性炭吸着塔、脱硝反応塔の4つの排ガス処理設備により、排ガス中の有害物質の低減を図る。 平成19年度より、埋立処分を実施していた溶融飛灰について、「山元還元」事業に転換し、資源化を図るとともに、薬剤費用と埋立費用(廃棄物対策課分)の削減が図れた。				

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)	≪ 最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input checked="" type="checkbox"/> 二次評価 ≫				
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])				
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input checked="" type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
	平成19年度中に改善した点	平成18年度までは、溶融飛灰について埋立処分を実施していたが、本年度より「山元還元」事業に転換し、資源化を図るとともに、薬剤費用と埋立費用(廃棄物対策課分)の削減が図れた。				

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)	
	当初予算		1,527,632	1,429,908	1,319,733	
	決算 (見込み含む)		1,415,048	1,323,826		
	(嘱託職員) (臨時職員)	(人)	(0.50 人)	(人)	(0.00 人)	
	正規職員人件費		11.45 人	105,340	10.05 人	94,410
	公債費					
	事業費合計		1,520,388	1,418,236		
	財源内訳	一般財源		1,520,388	1,418,236	1,319,733
		国・県支出金				
		受益者負担金				
	市債					
	その他					
	市民一人当たり(単位:円)		4,499.7	4,182.9		
	利用数一単位あたり(単位:円)		25,839.8	25,070.5		

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	焼却量	年間焼却量	t	58,839	56,570	56,290	
	ダイオキシン類測定	測定結果(1号焼却炉)	ng-TEQ/m3N	0.0045	0.0016		
	ダイオキシン類測定	測定結果(2号焼却炉)	ng-TEQ/m3N	0.0014	0.0025		
	成果分析	ダイオキシン類測定	排ガス中ダイオキシン類濃度が 0.01 ng-TEQ/m3N以下であること	目標値	0.01	0.01	0.01
			実績	<0.01	<0.01	実績値の拡大を図る1	
			%	達成率	100.0	100.0	実績値の縮小を図る2

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性 <input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大す <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	現在の実施主体 市及び委託業者 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合 <input type="checkbox"/> 統合する <input checked="" type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業 <input type="checkbox"/> 統合等必要なし	受益と負担の関係	受益者負担の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	明らかとなった課題	安定した一般廃棄物の焼却処理を継続するとともに、適正な施設の維持管理に努め、ランニングコストの低減が図れるよう検討する。		
	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)	
平成20年度における目標設定	焼却設備や灰溶融設備の維持管理を適正におこなうことにより関係法令や自主基準値を遵守し法令違反及び基準値の超過がないよう運転管理をおこなう。	基準値の超過の有無		年度末
平成21年度における事業の方向性	総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])			
予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input checked="" type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了			
評価理由	効率的な運転管理を徹底するものの、維持管理費については多額の費用が必要である。			
評価日	平成20年5月9日	記入者職氏名	主幹 廣川 澄芳	

⑧二次評価	平成21年度における事業の方向性	総合評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了				
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
	評価理由	評価日				
	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い
優先度評価	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	評価理由	評価日				
		A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業				
		B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業				
		C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業				

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 有り	計画コード	323
	施策の体系	3-2資源循環の促進	施策の方向	3-2-3廃棄物の適正処理
	◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し	計画コード	
	基本目標			
主要課題				
施策の方向				